

#### 第四章 本物の健康住宅 日置建設さん

本物の健康住宅を手掛ける工務店さんとして、明石市に日置建設さんがあります。社長の日置さんは、私同様に、とても研究熱心な方で、やはり、ご自宅を実験台にされています。

実は、日置さんは子供の頃からアトピーに悩まされてきました。15年ほど前に、当時務めていたゼネコンでの激務がたたり、いつしか気が付くと、ステロイド漬けの身体になっていたのです。

もはや、普通に生活することも、ままならなくなった日置さんは、勤めていたゼネコンを辞めざるをえなくなり、その後、4ヶ月の間、病院に入院することになりました。それはもう、地獄のような日々でした。

- 22 -

そんな辛い体験を通して、日置さんは、自分と同じようにアトピーで悩む人を何とか救うことができたいものだろうかと考え、実家の工務店を継ぐ決意を固めました。

まず、真つ先に自然素材の研究に着手しました。研究に研究を重ね、ついに、ほとんどの材料が自然素材でできた「自然素材住宅」のスペックが完成しました。

そのスペックで建てた家は確かにいい家でした。お客さんにも喜んでいただけました。でも、日置さんには何か引掛かるものがあったのです。そして、5年前、その、引掛かっているものに答えを出すことができました。

そうです。何も、家中を自然素材にする必要はないのです。自然素材にするのは、人間が触れる内装材だけでよいのです。

断熱材などは、自然素材であることよりも、断熱や気密のことを重視して考えなければいけない。

- 23 -

外装材や屋根材などは、自然素材であることよりも、風雨から家を守り、強い日射などの劣化に強いことを重視しなくてはいけない。

そうです。家のそれぞれの部位には、その部位に求められる役割がある訳で、その役割が、最も重要なのです。

役割を突き詰めた結果、「ある部位は自然素材に、ある部位は人工素材に」というのが、本来あるべき正しい姿です。

そのことに気が付いた日置さんは、その後、高断熱高気密の研究を重ね、本物の健康住宅を完成させました。

日置さんがおっしゃっていました。

「自然素材住宅をされている工務店さんは、自然素材にこだわり過ぎてしまうために、家の本来の目的を見失いがちである。」

冒頭で紹介した、亀岡市のIさんの家を建てた、建築士の方や工務店は、そこが間違っていたのです。

ご自身が、アトピーと格闘し、本当に辛い経験をされ、真剣に家づくりに取り組んでおられる方なので、日置さんの健康住宅への考え方も本物だと思いました。

日置さんは現在、ご自身の工務店で、本物の健康住宅を建設している傍ら、「シックハウスを考える会」や「東京大学の坂本雄三教授」が主催するプロジェクトに参加し、シックハウスの対策についての活動をされています。

- 25 -

- 24 -